焦点があてられ，この問題は軽視されがちであったことを考えると，このようにきちんと解説されているところ自体評価するに値する．

第7節では命名法にごく簡単に言及している．命名法は煩わしいものであるが，その必要性は十分認識されるべきであると率直に述べている．Box ではナマズのなかまの *Noturus* 属のシノニムリストをもとに，属の命名史を解説している．同時にもう一つの Box では，同じ属の *Noturus eleutherus* という種のシノニムリストをもとに種の命名史を解説している．今までシノニムリストのこのようなわかりやすい解説をみたことがなかったので，たいへん参考になった．また，属より上のレベルの分類群名を単数名詞にするのは誤用であるとの指摘にはハッとさせられた．（すなわち "The Osteichthyes are the most diverse vertebrates, and Cyprinidae are freshwater fishes" というのが正しい言い方．）

第8節では同定に関する一般論が述べられている．第9節ではさまざまな研究における魚類コレクションの重要性を説き，第10節ではその重要性に対して果たしうる自然史博物館の意義を強調している．「強調している」という事実自体，海外でも自然史博物館がしだいに軽視されてきている現状がうかがえる．アメリカの事情をもとに解説した部分は知らないことも多く，興味深く読めた．

以上が第3章の概略である．細部はともかく構成がすばらしく，内容も十分近年の分類学の進歩を反映したものであった．Box の効果はきわめて高く，このシステムはもっと日本でも取り入れられるべきだろう．この章のレベルの高さから類推するに，他の章もかなりのレベルにあると信じる．これは最近アメリカの単行本の出版の際に頻繁に行われているピア・レビュー・システムのおかげだろう．このような分担執筆による本ができると，往々にして章による出来不出来の差が激しいものだが，ざっと目を通したかぎりでは一定の水準が保たれているような印象をもった．

某先生は来年度の自分の教室のセミナーにこの本を使おうと考えているとおっしゃっていた．私は来年度このセミナーに来るであろう学生たちがうらやましい．私が修士1年の頃にこのような本があったなら，どれだけ研究が楽に始められただろう．本書は American Fisheries Society の賞賛されるべき偉業である．願わくば，内容がつねに up-to-date なものになるよう，何年かごとに改訂されることを祈る．

（宮　正樹　Masaki Miya）

会　員　通　信・News and comments

いま行動生態学がおもしろい—第22回国際動物行動学会議・沖縄サテライト集会を終えて—
22nd IEC Satellite Meeting "Reproductive Behavior and Ecology of Marine Fishes and Other Animals" in Okinawa, August 30–September 2, 1991

今年の夏は熱かった．暑さの話ではなく，国際会議でのホットな議論を思い出したのだ．8月22日から29日にかけて，京都の大谷大学で第22回国際動物行動学会議 (International Ethological Conference) が開催された．日本で開催するのは今回が初めてであったが，約40カ国から700名をこえる参加者が集まった．この会議では毎日午前中を Plenary Session に当てることになっており，6日間で24の招待講演が行われた．そのうち4名は魚類研究者 (M. R. Gross, J. R. Baylis, E. A. Fischer, R. R. Warner) を招待し，繁殖戦略・子の保護・性配分・性選択などについて講演してもらった．一般講演・ポスター発表では，約500題のうち1割弱が魚類を対象とした研究であった．

この国際会議を契機に，魚類研究者間の交流を深めるため，私たちは2つのサテライト集会を企画した．1つは淡水魚の行動・生態に関するもの（世話人：前川光司・中井克樹），もう1つは海水魚の繁殖行動・生態に関するもの（世話人：桑村哲生・中嶋康裕・酒井一彦）である．前者は京都での本会議に先立ち，8月19日から21日にかけて，琵琶湖北岸の国民宿舎にて開催され，約40名の参加者が熱心な討議を行なった．後者は本会議の後，8月30日から9月2日にかけて，沖縄県瀬底島の琉球大学熱帯海洋科学センターにおいて開催された．前置きが長くなったが，ここでは瀬底でのサテライト集会の様子を紹介してみたい．

このサテライト集会では，繁殖行動・生態についての論議を深めるため，魚にかぎらず他の海洋生物の研究者にも呼びかけた結果，参加者は50名（うち外国人15名）に達した．まず，8月30日夕のレセプションで，京都 IEC に出席した30名と新たな参加者が合流し，自己紹介をまじえて，なごやかに歓談した．翌日から2日間は午前・午後各3時間を研究発表にあて，合計25題の講演が行なわれた（演題は後記参照．なお，これらの Abstract は琉球大学熱帯海洋科学センター発行の学術雑誌

"Galaxea" に掲載の予定).

2日間とも昼休みを3時間あまりとって，サンゴ礁での潜水観察や海洋博水族館の見学にあてた．午後の会議は連日7時過ぎまで延長になったが，その後の野外バーベキュー・パーティーでも，熱心な議論が夜遅くまで続いていた．互いの年齢や身分とは無関係に，格式張らずに議論できることが，つまり研究上の議論そのもので勝負できる雰囲気こそが，学会をおもしろくするのだ．最終日の9月2日には朝から，ボートで約20分の距離にある水納島へフィールド・トリップにでかけた．幸いにも好天に恵まれ，透明度抜群の海で潜水観察を楽しみ，白砂のビーチでの昼食会で別れを惜しんだ．

繁殖行動・生態に関する研究は，日本魚類学会年会の発表においても年々増加しているが，これがおもしろくなってきたのは，行動生態学の理論が普及してきたからである．今回も繁殖成功度(適応度)を基準として，個々の行動・生態がどのように説明できるかについて，活発な議論が戦わされた．批判・検証不可能な「仮説」や「理論」で人を煙に巻くのとは違って，行動生態学の理論枠は単純・明解である．だからこそ，突っ込んだ，熱い議論ができるのだと私は思う．

このサテライト集会のねらいの1つは，日本の若手研究者・学生が外国の一流の研究者と交流を深め，刺激を受けることにあったのだが，若い人達は(世話人もまだ若いつもりだが)，決して上手な英語ではないものの，積極的に話しかけ，予想以上の成果があがったと思う．また，外国の研究者も日本人の発表にしばしば驚き，熱心に質問を続けていたので，彼らにとっても刺激的な研究会であったことは間違いない．いやむしろ，外国人のほうが，より興奮したのかもしれない．我々は彼らの仕事を論文を通してよく知っている．今回の発表もそれに毛の生えたようなものだ(ちょと言い過ぎた？)．それに対して，彼らにとっては，論文も見たことがない(書いてないから当然だ)日本の若い人達が次々とおもしろい研究を発表するのは驚きであったろうし，行動生態学の普及ぶりにも驚いたことだろう．今後はこの情報の一方通行(日本の輸入超過)を是正しなければ，この分野でもジャパン・パッシングが始まるかもしれない．とくに若い人達には，一流の国際誌にどんどん論文を書くのはもちろん，海外での国際会議にも積極的に出席して欲しい．それには金がかかるが，魚類学会でも学生・若手のための旅費助成の制度を考えてみてはどうだろうか．

本サテライト集会の開催にあたっては，琉球大学熱帯海洋科学センターの山里清所長・高野和則教授をはじめ，所員ならびに学生・OBの方々が準備・運営に多大な協力をして下さった．この誌面を借りて，世話人を代表して心からお礼申し上げます．

最後に，この研究会の雰囲気を伝えるエピソードを1つ紹介しておこう．最後の夜(9月1日)のパーティーでは，思いもかけず，外国からの参加者が即興で「ありがとう」の歌を合唱してくれた．それに感激した私たちは，翌日の水納島での昼食会で送別の歌を彼らに贈ったのだった（メロディーは "Sukiyaki" で).

※ 上を向いて歩こうよ
涙がこぼれないように
Remember one summer nights,
Sesoko Satellite Meeting

We wish to meet you somewhere in the water,
You shall see us somewhere again in the world

※くりかえし

Papers Presented at the 22nd IEC Satellite Meeting "Reproductive Behavior and Ecology of Marine Fishes and Other Animals" (Aug. 30 to Sept. 2, 1991)

Kazuhiko Sakai: Resource allocation plasticity in a massive coral, *Goniastrea aspera*, with special reference to onset of sexual reproduction.

Ravenska Radjawane & Moritaka Nishihira: Reproductive ecology of the cluster winkle *Planaxis sulcatus* (Born) on an Okinawan reef flat.

Janet L. Leonard: Sexual conflict theory and opisthobranch mating systems (Gastropoda).

Eric A. Fischer: Life history trade-offs in harlequin bass.

Robert A. Kinzie III: Reproductive biology of a threatened freshwater goby *Lentipes concolor*.

H. Jane Brockmann: The effects of age on male behavior in *Limulus polyphemus*.

Hiroyuki Munehara, Y. Koya, K. Takano, H. Okamoto, A. Takenaka, O. Takenaka & K. Shimazaki: Reproductive style of the marine sculpin *Alcichthys alcicornis* exhibiting copulation and paternal care.

Masanori Kohda: Filial cannibalism by paternal males in a damselfish *Stegastes altus*.

Kenji Karino: Male-male competition and female mate choice in a herbivorous damselfish, *Stegastes nigricans*.

Takuro Shibuno: Female spawning migration of the protogynous wrasse *Halichoeres marginatus*.

Robert R. Warner: Sexual selection and male characteristics in the bluehead wrasse: mating site acquisition, site defense, and female choice.

Mart R. Gross: Evolution of alternative reproductive strategies in fishes.

Toshiaki Fuse: Social and mating systems of a dragonet,

Neosynchiropus ocellatus.

Hisao Hamaguchi: The factors that reduce feeding rate of territorial males in *Canthigaster valentini* (Tetraodontidae).

Izumi Akagawa & Muneo Okiyama: Mating behaviour of *Rudarius ercodes* by undersea observation.

Naomi Tanaka: Pair territory and diurnal migration of the vagabond butterflyfish *Chaetodon vagabundus.*

Shinji Yabuta: Spawning migration of monogamous pairs in the butterflyfish *Chaetodon trifasciatus.*

Ernst S. Reese: Behavior and ecology of reproduction in butterflyfishes, family Chaetodontidae: what we know and what we don't know.

Tetsu Sato, Hiroshi Arai & Masaaki Kodama: Attack toward pair mate, female role taking over and stopping of spawning in a simultaneously hermaphroditic fish in an aquarium.

Terry J. Donaldson: Courtship and spawning behavior of the grouper *Cephalopholis spiloparaea.*

Yuji Hirose: Small sea-anemones stunt the growth of the anemonefishes.

Douglas Y. Shapiro & Daphne Fautin: Gonad development in anemonefishes: a new interpretation of protandric hermaphroditism.

Yoichi Sakai: Early sex change of an angelfish *Centropyge ferrugatus* (Pomacanthidae).

Tomoki Sunobe: Mating system and sex change for both directions in the gobiid fish *Trimma okinawae.*

Yutaka Yogo, Tetsuo Kuwamura & Yasuhiro Nakashima: Evolution of sex change among monogamous fishes: theories and facts.

（桑村哲生　Tetsuo Kuwamura）

第3回千葉県立中央博物館自然誌シンポジウム「生物進化と生物地理」

標記のシンポジウムを12月8日(日)，10:00–17:30，千葉県立中央博物館講堂にて行います．講演者(五十音順)と演題(仮題)は以下のとおりです．皆様お誘い合わせのうえご来聴ください．なお，シンポジウム終了後懇親会を行いますのでお気軽にご参加ください．

大場秀章(東大資料館)　キリンソウ亜属(ベンケイソウ科マンネングサ属)の分類と生物地理

粕谷英一(新潟大教育)　進化生態学における種間比較と系統関係

河田雅圭(静岡大教育)　形態進化と進化の単位

直海俊一郎(千葉中央博)　ブチヒゲハネカクシ属 *Anisolinus*（甲虫目，ハネカクシ科)の系統と生物地理

三中信宏(農水省農環研)　分岐図の多次元幾何学：分類学および生物地理学における言語としての順序理論

宮　正樹(千葉中央博)　分岐図からみた適応仮説："適応"それとも祖先からの"遺産"？

望月賢二(千葉中央博)　暖海沿岸性魚類の生物地理

森田利仁(千葉中央博)　構成形態学的視点からみた形態進化——おもに貝類の殻形態を例にして——

交通：JR千葉駅より京成バス「大学病院」行き「中央博物館前」下車徒歩5分．もしくは車で京葉道路松が丘インターより5分．

問い合わせ先：千葉県立中央博物館動物科の望月・宮・直海まで

TEL: (0472) 65-3274(直通)/65-3111(代表)

（宮　正樹　Masaki Miya）

会　　記・Proceedings

1991年度第2回役員会

1991年7月15日(月)．於東京水産大学資源育成学科会議室

出席者：落合，上野，本間，新井，富永，松浦，多紀，宮，藤田．

1．前回議事録の確認

2．報告事項．会長：ニューヨークタイムズ紙(1991年3月14日)で長良川河口堰問題が取り上げられ，サツキマスとの関連で魚類学会を含む多くの学術団体から建設省に対して長良川河口堰建設の中止を求める要望が出されていることが紹介されている旨の報告があった．編集：38巻1号は6月下旬に発行した．38巻2号は16篇の論文を載せる．手持ち原稿55篇．会計：国内関係の超過ページ未納者はほとんど納入された．庶務：本年度の文部省科学研究費補助金は210万円．第15期日本学術会議会員として第6部は平野禮次郎，有賀祐勝両氏，第4部は丸山工作氏と決まった．評議員の原田輝雄氏の逝去を悼み，弔電をさしあげた．

3．日本魚類学会からの動物科学研究連絡委員会委員候補者として新井良一氏(国立科学博物館)を推薦することに決定した．